

天神山古墳群三ツ禿支群 13 号墳出土の鉄鐸について

1. 天神山古墳群の概要

「天神山古墳群」は、鯖江市北部から福井市南部にまたがる山塊に分布し、弥生時代後期から古墳時代後期にかけて造営された墳墓・古墳が 89 基確認されている。分布域は大きく 3 つに分けられ、天神山支群 51 基、山頂支群 16 基、三ツ禿支群 22 基（現存 3 基）が確認されており、これまで福井県および鯖江市教委によって調査が実施された（福井県埋蔵文化財調査センター 2002～2004・2009、鯖江市教委 1956・1967・1968・2003 年 ※天神山城跡を含む）。これらの調査成果によって、主に弥生時代後期の墳丘墓造営を契機とし、前方後円墳 3 基を含め古墳時代後期にかけて連続と営まれたことが判明しており、山塊南麓に位置する西番遺跡がその造営の一部を担ったムラと推測される。市域ではこれほど長期間に及ぶ古墳群は他に確認されておらず、鯖江市北部域の古墳時代の様相を知るうえで貴重な複合遺跡として捉えることが可能である。なお、残存状況については、道路建設や住宅地造成のため天神山支群の一部および三ツ禿支群の大部分が消滅している。

2. 鉄鐸の概要

鉄鐸とは鉄製の鐸（大型の鈴）のことで、円錐状に折り曲げた鉄板と舌と呼ばれる鉄片を組み合わせて鐘状に製作されたものである（図 1）。現状では、日本列島の約 10 遺跡、約 50 基の古墳から計約 140 点の古墳時代の鉄鐸が出土しているものの（図 2）、その分布の中心は九州地方や近畿地方で、関東や東海でも複数確認されているが、北陸地方では出土事例が一例もなかった。また、北信越地方に範囲を広げても、長野県小諸市中原遺跡の竪穴建物から出土した一例のみで、古墳出土のものは一例もない。

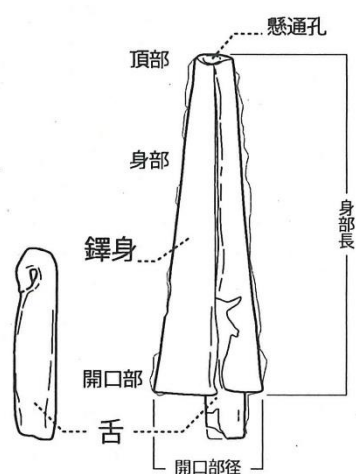


図 1 鉄鐸の部分名称（早野 2008）

そもそも鉄鐸は、「渡来系鉄器」と呼ばれるものの一つで、朝鮮半島由来であることが指摘されてきた。実際に、日本列島内における出土事例よりも半島での出土事例の方が多くそれを傍証するものである。慶北大学校人文学術院教授金跳咏氏によると、5 世紀後半に韓国嶺南地方で出現した可能性が高いという（金 2019）。ただし、日本の最古例も 5 世紀中頃（古墳時代中期中頃）であると考えられており、出現後ほどなくして、列島へと伝来したことが理解される。そして、朝鮮半島での鉄鐸生産のピークである 6 世紀中頃に列島内でも盛んに製作されたようである。大阪歴史博物館の寺井誠氏は日本出土の鉄鐸を朝鮮半島の三国時代（高句麗・新羅・百済の三国が朝鮮半島内

で競っていた時代) の諸国の一つである新羅と関わるものであると理解している(寺井 2018)。

また、鉄鐸の性格については愛媛大学教授村上恭通氏が半島の伽耶地域(三国時代に列島と交流が深かった半島最南に位置する小国群)への分布の集中や、鍛冶具とともに出土する事例が多いことから、日本列島の鍛冶技術者の出自や系譜を考えるうえで重要な遺物であると評価している(村上 2004)。



図 2 鉄鐸の分布 (早野 2022)

3. 天神山古墳群三ツ禿支群 13 号墳出土の鉄鐸

今回確認された鉄鐸 2 点は、いずれも鯖江市入町に所在していた天神山古墳群三ツ禿支群 13 号墳の横穴式石室内から出土したものである。

発掘調査報告書(鯖江市教育委員会 1973)にて、13 号墳の報告を担当した窪田隆三氏は、石突(槍や鉾の刃部と逆側の先端に取り付けられる部位、地面に突き立てる側であるため石突と呼ばれる)と報告しつつも、槍や矛の刃部が出土していないことから「全く別物であったかもしれない」と明確に判断できないことを記載している。そもそも、石突には舌部が伴わない。

13 号墳出土の 2 点の図面、写真を確認すると鉄鐸の特徴である舌部がしっかりと確認できる。したがって、これら 2 点は石突ではなく、鉄鐸であると判断できよう。

かつてより、古墳時代の鉄鐸が分布しない地域であるとみられていた北陸地方で初の事例が確認されたことから、研究の進展が期待される。



図 3 天神山古墳群三ツ禿支群 13 号墳出土鉄鐸写真

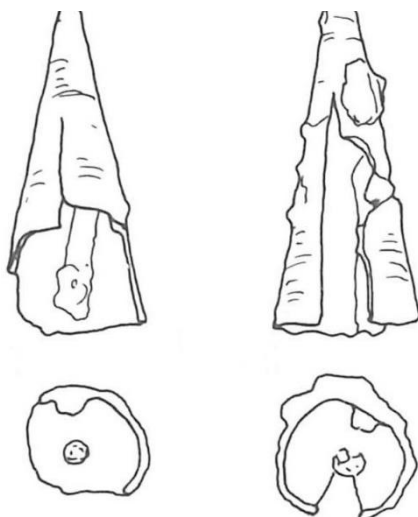


図 4 天神山古墳群三ツ禿支群 13 号墳出土鉄鐸（鯖江市教育委員会 1973）

参考文献

鯖江市教育委員会 1973 『天神山古墳群』

寺井誠 2018 「朝鮮半島と日本列島の鉄鐸」『一般社団法人日本考古学協会第 84 回総会研究発表要旨』一般社団法人日本考古学協会

早野浩二 2008 「古墳時代の鉄鐸について」『研究紀要』第 9 号 財団法人愛知県・教育スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター

早野浩二 2022「古墳時代の鉄鐸の諸相と東海」『東海における古墳時代渡来文物の流入とその背景』第36回考古学研究会東海例会

金跳咏 2019「三国時代における鉄鐸の副葬と性格」『韓国考古学報』第113編 韓国考古学協会

村上恭通 2004「朝鮮半島系遺物を共伴する鍛冶具をめぐって」『東アジアにおける古代鉄鍛冶技術の伝播と展開』平成12年度～平成15年度科学研究費補助金研究(B)(2)研究成果報告書